

博物館市民説明会 R7.7.1きらら（夜）

Q	年間の入場者数と年間維持費は。 富士山の噴火に備えて、例えば潤井川の対岸に市立病院の入院病棟や集中治療室を新設する計画があったとしたら、それよりも郷土史博物館を優先させて今やらなければならない理由を教えてください。 例えば静岡市の歴史博物館は年間維持費3億円と言われているが、予定入場者が年間50万のところ9万人と低調とのこと。郷土史博物館の予定入場者、建設費、維持費のバランスが取れるように調整していただきたい。災害対策に回していただきたいと思っている。
文化課長	入場者数は具体的に検討していないが、例えば富士では、年間三万人くらい入っている。 年間の維持費は建物の管理費用、人件費、そして事業費になる。建物はこれから規模やどんな機能をつけていくかによって電気料も変わってくる。その数字は絞れていない。 人数は、まずは市役所に学芸員が6人いる。半分は埋蔵文化財センターで法律で定められた仕事している。残りの3人が博物館で働くことになると思うが、その学芸員だけでは実際事務的なこともあるため、プラスも必要だと思う。あとは事業をどの程度おこなうのか。講座であれば、歴史の講座や出張展示など色々あるんが、そういったことをどれだけやるかによって人数も変わってくる。 今年度基本計画を作る中で、規模や建物、事業でどのようなことをやかを絞っていく。ただ、それでも具体的にどれだけの人数が必要か決まるのはまだまだ先となる。
市長	市立病院の手術室の話だが、今市立病院は建て替えはしないで、今ある施設をリニューアルしてやる方向で進んでいる。手術室は狭いので広くし、今の高度医療の中で決して他に劣るようなことはなく、立派なものをしっかり作っていきたい。潤井川の向こうではなく、現在の市立病院のところに、適当な場所を見つけて建てるという予定。
Q	管理がそんなにシビアでない収蔵物については、分散して収蔵する話があったが、展示して皆さんに見ていただくことを考えれば、本来、すべてを収蔵して展示することが博物館の筋ではないか。 関連して、コンパクト化して建設費用を抑える話があったが、将来的に文化財など増えてくるが、最初にコンパクトにしておく、また分散させなければならなくなったり、展示できないような形でどこか格納されてしまう恐れもあり、見ていただく機会が減ってしまうと思う。将来的な展望は。
文化課長	今郷土資料館の中には埋蔵文化財系のものと、郷土資料館で集めた資料と分かれている。埋蔵文化財センターを作ったときにそれまで市内に点々とあったものを一か所にまとめられたものなので、できれば分散しない形で保存したいと思っている。先ほど既存の建物、作った建物、空いてくる建物などの活用について話をしたが、例えば学校の統合などが検討されているが、学校の建物1棟まるまる空くような形であれば、大体収蔵できると想定している。 埋蔵文化財センターのものもそこに収蔵することになるので、そこで展示は可能かなとも考える。コンパクト化によって結局はそこに入りきらないものがあるということだが、今申し上げた通り、埋蔵文化財センター系のものや民具などは、一棟大きいところにといいところで予定したいと考えている。

Q	学ぶことは、ある程度限られた時間の中で展示物や、いろいろな歴史の成り立ちなどと併せて学習したり、展示を見たりすると思う。 その時に重要で温度管理が大事なものは今回新設される博物館で、そうでないものは、例えば郊外などの廃校となると、その距離の中で、どのように関連付けて、学習をこどもたちや私たちができるのか疑問。本当はなるべく近隣で、できれば同じところにあるべきだと思う。
文化課長	市内は広いのでどの学校になるか分からないが、その学校の周辺にも文化財や歴史文化がある。今から作る博物館については、博物館を拠点にして市内をめぐるような展示ができればという話もしたが、博物館で全体を把握した上で実際の場所に訪れてほしいということが構想にあるので、その一つとして、埋蔵文化財などの収蔵しているところを見てもらい、その周辺の歴史文化も紹介しながら見てもらうという形で、拠点のところから市内をめぐるような繋がりができればよいと考える。
市長	収蔵品にも民具など日常の使われたもので残しておかなければいけないものがある。そうしたものも郷土史博物館に入れるのではなく、それは少し離れたところで足りるので分散はやむを得ない。湿度や温度を管理しなければいけない大事なものはきちんと保存し、そうでないものは、学校など活用したほうがよい。
Q	芝川にあった資料館は何人使ったか。
市長	埋蔵文化財センターは、私が市長になってから何も使っていなかった。当時、文化会館の地下に埋蔵文化財のかげらを取っておいたり、あちこち分散して保管してあったので、それを一か所でまとめようということで、あそこへ、埋蔵文化財センターという名前をつけて保管した。 ところが、富士川の浸水想定区域となり、そのまま流してしまったら大変なことになるため、はやくそれを移転しようということになり、郷土史博物館を作ったほうがいだろうということになった。
文化課長	利用人数は、手元に令和元年までのものしかないが、平成27年に年間200人、28年278人、29年に225人、平成30年に123人、令和元年に140人である。
Q	少ない。使っていないのに、本当に必要なのかと思う。図書館で色々やったほうがよいのでは。今はVRもある。例えば図書館などで、VR機器10台くらい置いて資料を見せればこんなお金はかからない。だからなぜ必要かなというところ。
市長	県下で、人口10万人以上で、博物館のないまちは富士宮市だけ。我々がこうして生きてきて、それを後世につなげるためには資料をしっかりとした形で保管していかないとだめになってしまう。そうした意味で博物館はどうしても必要。 これは価値観の違いで、平行線になってしまうが、市としては、民間の人が困って保管してもらいたいといわれても、市がきちんと保管できるだけの施設を作らなければならない。そういう責任もある。せっかく伝わってきた先祖からの大事な資料がだめになってしまうことは非常に残念。何としても今のうちに作っておきたい。

Q	大鹿窪に行った。芝川の役場に行って、展示してあるか聞いたら、あれは資料が傷んでしまうので土の中に戻していると言われた。 若い人たちに意見を聞いてみると、子供が遊べる公園のほうがまだよいと言っている。こういう資料はそもそも本当に利用できるのか。本当にそこで皆さんが癒されるというようなことがあるか。ないと思う。私も芝川にあったのを去年知った。今の高校、中学生は静岡の登呂遺跡だけでも数時間単位での教育しかしていない。そこを富士宮がどうのこうのと言っても、必要ないと思う。
市長	大鹿窪遺跡の価値、それをご存じないからでは。一万二千年、三千年前にあそこに我々の祖先が住んでいた、それを表した遺跡があるのは全国に二つしかない。縄文草創期の。そうしたものを掘ったままにしておくと、雨などで壊れてしまうので、掘って研究したら埋める。富士宮にも滝戸遺跡や月の輪遺跡など遺跡がたくさんあるが、そういう所を掘ってはちゃんと資料として留めて、後世につなげていく。やはり我々の祖先があそこに住んでいたということは、ものすごい悠久のロマンを感じないか。そういう価値観の問題。勝手に埋めているわけではなく根拠がある。埋めて史跡公園となったが、こんな日本で二つしかないものが芝川にあるというのはすばらしいこと。それを子孫に伝えていくというのが我々のつとめである。
文化課長	埋め戻しの話について、埋蔵文化財センターの仕事の話をしたが、発掘をして、見つかった土器などはセンターのほうに持ち帰る。そして調べて、調べたものについてはもとに戻さずにセンターの中で保存している。 ただ、発掘をして出てくるものは土器や石器だけではなく、例えば建物を建てた柱の跡、柱は腐ってしまいますので木は残っていませんが、ここに住居があったなど、掘っていくとそういったでこぼこしたのが出てくる。そういったものはそのままにしておくのだんだん劣化してしまう。静岡の歴史博物館行った方はご存じかと思うが、あそこに発掘で昔の道の跡が出ている。あそこは埋めないで建物の中の一階で見えるようにしてある。 あの方法がよいかわからないが、埋め戻すほうが、段差みたいなものは劣化しないで残るので、その点について埋蔵文化財センターの職員が伝えたと思う。そこから掘り出してきたものは埋蔵文化財センターで保存している。 埋蔵文化財センターは発掘するところで、発掘されたものは皆さんに見られるような形で本物を収蔵し、見られる形でおいてある。 しかし、富士宮の歴史は埋蔵文化財だけで分かるものではなく、時代時代でいろいろな歴史があるので、それらをお知らせできるところが今ない状態。こどもたちは富士山学習などで地元の歴史など調べたりしているし、例えば世界遺産のことなどについても調べたりしているが、そういった細かい歴史を、周辺の人たちに伝えることができない状態。 世界遺産センターは、世界遺産のガイダンス施設なので、富士宮の歴史を伝えるところではない。なので、世界遺産の構成資産に富士宮の村山や山宮などあるが、そのひとつひとつ、村山の人たちがどうやってその信仰をしてきたとか、そこでどういう信仰とともに暮らしてきたかというところまでは伝えられない状態。

文化課長	図書館などを使ってはということだが、ほかのところでも公民館や交流センターなど空いたところであればいいのではと言われた。ただ、ここきららもそうだが、毎週月曜日はこのサークルが毎週練習している。というようなところがあり、例えばこの、駅前交流センターの一週間は何とかサークルの方たちに我慢していただけるが、例えば二週間三週間展示したいとなったときにそれはできないため、長期の展示はできなくなる。 図書館にスペースがあったとしても、そこで勉強するようなスペースだったり、用途があるので、ずっとそこで展示することは難しい。VRなどデジタルのものは活用していかなくてはならないが、デジタルは永遠ではない。機械が、種類が、バージョンが変わったりすると過去のものが使えなくなったりする。ということは、本物はしっかり残しておかなくてはならない。いい状態で残しておかないと、そのデジタル化した映像がダメになったときに、もう一回デジタル化したい、というときに本物が残っていないと再度デジタル化の映像が作れない。なので収蔵は必要。ただ収蔵しておくだけではなく、皆さんに展示してみせたり触ったりしていただくなど、それを活用することも必要。
Q	図書館にも富士宮の資料がある。そこで子供たちが本当にやっているかということ、やっていない。それがなぜ今必要かということ。このスケジュールを見ると早い状態。これは本当に我々の意見を聞いてもらっているのかと。若い人たちやこども世代。子供がいる親は遊びの公園を作ってほしいと言っている。
市長	富士宮に織田信長が来たことや、徳川家康が来たという話は知っているか。天下人が二人富士宮を訪れ、天正十年に織田信長が武田攻めを行って勝ち、家康がその信長を出迎え、朝霧高原で馬駆けをしたとか、信長が浅間大社に立ち寄り、富士見石というところに座って眺めたとか、家康が信長と供応したとか、そのわずか三か月後くらいに明智光秀に信長が討たれて亡くなってしまったとか、富士宮にも歴史がある。そういうものを富士宮を訪れてくれる人に知っていただきたいし、市民にも知っていただきたい。富士宮にはいろんな歴史がある。それが眠ってしまっている。それでは残念。富士宮の歴史を世に生かしていただきたいと思っている。 必要ないという人には必要ないかもしれないが、私たちは作っていくべきだと思っている。そのつもりでご協力いただくために、こうして説明をしている。
Q	市長はすごい熱心に話をして、郷土愛がたくさんあって、文化遺産についても、文化的なものにも関心があると言っているが、芝川の埋蔵文化財センターの有様をテレビで見たがひどかった。私も通りがかりに見たことはあるが、入ったことはない。それだけ大事に思っているのに、市長になって十年間、これをどうして放置していたのか。 浸水区域になるっていうのは、湿気のすごい、川のそばにある。こういうものをそこに入れるということ自体、市長の大ミスだと思う。あんなところに入れるということは、関心がなかったのでは。信頼できない。急に気持ちが変わってこういうものが大事ってなってきたのではないか。
市長	あそこは保健センターだった。空いていた。富士宮市に、文化財があちこちに点在していた。どこか置くところないかと、とりあえずあそこに置こうということにした。なので、あそこは本格的に郷土史博物館としての機能を持っておらず、あそこで十分だとは思っていない。 あそこは埋蔵文化財センターで、あちこち散らばっていた埋蔵文化財を集めた。あのままでは富士川が増水してあふれてきた時に流れてしまったら困るので、郷土史博物館を作って保管しようというのが今の考え。

市長	浸水区域は後から決まった。当時は、そこで問題なかった。ところが地球温暖化で、雨が非常に、今までは時間あたり30mmだったが、今では80mm、90mm、100mm、そういう時代になってきていて危険である。
Q	芝川から白糸の滝の側に移すと決まったのではないのか？ 住民説明会も出て、設計図も見せてもらった。20人くらいしか居なかったが。 浸水区域の芝川から、湿気を理由に今度は白糸の滝へ移す、という住民説明会も受けたが、白糸もすごく湿気があり、冬は凍るし雪もある。説明会の時には、湿気の話は一切なかった。移転するなら湿気がない場所を当然選ぶべきではないか。
市長	そのようなことは言っていない。今は構想の段階で、色々検討しなければいけない。
文化課長	先ほど添付したものには地図はなかったが、構想の中で候補地を地図に落としたものはあった。 28年度に埋蔵文化財センターが浸水想定区域になったので、令和2年から検討を始めて令和3年度に基本構想が出来上がった。その基本構想を令和4年に説明してきた。その時に市の土地で使えそうなところで検討した。 説明会に回っている中で、会場に来られた方から白糸は湿気がとても大変だということを聞いた。それまで湿気のこととは把握していなかった。
Q	今度はきららに移転とするのか。
市長	それもぜひご理解いただきたい。今までの基本構想。これからは基本計画。その次に基本設計、実施設計。最初は構想の段階でやってきたがそれもだめ、これもだめとなった。 今候補地として挙がってきているのがこのきららの駐車場。なぜかという、もともと大きなものを建てられなかったが、駐車場に入るところの地主が協力してもらえことから可能性として浮上してきた。そうすれば商店街の活性化につながり、世界遺産センターとの連携も取れる。湿気も心配なくなりそう。いろいろ候補地に挙がっているが、それが決定ではない。今、プロも含めて学者先生も含めて、基本計画をしっかりと検討していただく段階。
Q	住民に説明したということは評価している。 しかし、構想の段階で話がなかったら市民が知らない間に進んでしまっていた。 今も4,860名の市民の署名が集まって、そのうち9割の方が何も知らない。

篠原副市長	三年前にお話を聞いたということだが、基本構想は何かというと、ビジョンである。その時に富士宮市としては、できるだけ市有地で費用を大きくかけたくない。色々市民からのご理解も得にくいから。市有地をまず選んでみようと、あの段階で白糸自然公園、富士山さくらの園、などをご案内した経緯がある。 ただその場所で決定ではなく、基本構想は郷土史博物館をこういう考え方でやりたいと、人が集うとか文化とか人づくりの拠点、こういうことでやっている状態。先ほど湿気の話があったが、実務面からすれば、上井出、北山以北の湿気というのは想像できる。ということは、湿気に対しての費用もかけなければならない。湿気対策はかなり重要。それも収蔵のためならということも含めてきたが、こうやって今いろいろなご意見を聞く中で、さらにまた市民の方のご意見も聞きて、もっと費用のことも精査しなければいけない。市長が述べたが、私たちが考えにくかった場所の可能性が出てきた。そして、また新しい選択が出てきた。 なので、大きさも白糸の時にイメージした、全てあの形でないかもしれない。先ほど分散という話もあった。そういうことも含めて、大きさも、また費用も考えた時に、湿気というところの対策の費用も、軽減もできるような要素の候補地が今出たという状態。 そしてもう一つ、郷土史博物館の意義という面で、こどもたちが関心があるのだろうか、若い人たちが興味あるのだろうか。あの施設で癒されるのだろうか、こういう質問があった。 今私たちは源頼朝が何をやっているか、徳川家康が何をやったか、こういう当たり前に知っている歴史、これはまさに先人の方が残してくれた経緯である。人生が短い中、先人が千二百年、千五百年の歴史を残してくれたのは、本当にその人の世代にしっかりと残してくれる人がいたからである。この郷土史博物館は何かというと、やはり歴史を残すこと。そしてそれをみんなで気づくことで、このまちに誇をもつ。そういうことの必要性があると思う。
Q	文化会館の中の郷土資料館を見てがっかりした。いったい市は何を持っているのか、どういうものがあるのか。見たことのない素晴らしいものが一点や二点はあるかもしれないが、いったいこの富士宮市が思っている素晴らしいものとは。それをずっと十年間怠ってきている。あれを見てみんながっかりした。

篠原副市長	私も企画部長、企画課長をやったりしていたが、十年、十五年とこれについて議論し今に至っている。その間に議員の皆さんとも色々な検討をしている中で、決して怠ってきたわけではない。実はこれについては、平成の最初の頃から議論があった。しかしバブルの崩壊があり、平成9年ごろには庁舎や市民体育館、保健センター、清掃センターが古くなるなど、そういう生活に直結した仕事が増えた。 どうしてもこういった施設は、優先順位からすると遅れがちになってしまう。そこで議論が止まったのは事実である。 しかし須藤市長（平成23年）になってから、この議論はもう一度再燃した。ただ、やはり箱物というところに対して、皆さん色々な心配事があると思う。一回行って、もう行かないのではないかな。私は郷土史博物館は展示場ではないと思っている。学ぶ場など、これから令和の博物館というようなものを、担当課と教育委員会、教育長とやってみたいと思う。 やはり今の世代で、浅間大社の、この町のど真ん中にある、まちのど真ん中にお城に近いようなシンボルがあるまちは中々ない。これをこの世代の中でしっかり残す形がいる、子供達が今興味ないかもしれない。若い人も興味がないかもしれない。それをこっちに目を向けてもらう、ソフトの事業が大変重要と思っている。
篠原副市長	私が何を言いたかったかというと、郷土史博物館の意義、これはやっぱり今の時代ひとつひとつ大事にしないと次に残らない。これが繰り返してきて、今の歴史があるということ。富士宮にもぜひそういうものを浅間大社、富士山文化があるまちに、やはり今の時代に残したい。残さないと、今人口が減る中で空き家が増えて、そこにすごい危険性がある。人が少なくなるとそういうものを守る人間が減るかもしれない。今まさにやらないといけないというのが市長の意思。
Q	デジタルアーカイブ化しても、資料、本物も残していかなければというが、やはりその時の最高の形で映像化して、そのものそのものを残しておいた上で、デジタル化して、こどもたちでも今は図書館でも簡単にいろいろな資料をいっぱい出すことができる。なので、持っているものをすべて映像化して、一人ひとり自分で見られるような形で残すことをひとつ考えておいては。 ある人の提案でよいと思ったのだが、商店街の空き店舗で展示をするというのがあった。空き店舗を展示場として借り、いくつもあるのを繋げて、何年間の契約でもよいが、展示品を交換するようにして、一番みんなが喜ぶもの、観光客、住民が喜ぶもの、そういうものを学芸員の技術で展示方法を駆使しておこなう。

私達子育て世代の多くが思っているのは、予算を何に使うのかの順番が違うのではないかと感じていることだと思う。将来につなぐ、未来への投資といていたが、少子高齢化が進み、昨年の出生数は600人ほど。富士宮市の歴史をつないでいくことは大切だと思うが、建物には維持管理費がかかる。我々はいずれこの世を去る。様々なもの・ことに当てはまるが、博物館も若者や子供たち、これから生まれてくる子どもたちに負担してもらうことになることは誰にもが理解・想像できる。現在では墓石でさえ子どもたちの負担になるからと、散骨や共同埋葬など、希望する高齢者も多いと聞く。

Q

他市では子育てサポートの利用が一歳から二歳までになった。他県、他市では、おむつやミルク代、子育てに必要なものを無償で支給されている。たとえば富士宮市でも、新たに生まれた600人の赤ちゃんに一人100万円を支給しても、一億円にも届かない。この場を設けることは大変有意義だと思うが、子育て世代は19時前後の時間帯は夕食や家事などに追われ、日中は家事などに追われている方が多いのが現状。丁寧に進めてるのであれば、できるだけ多くの市民にも周知できる方法、例えば母子手帳と一緒にアンケートがいく回覧板やアプリなどを利用するなど、さまざまな方法があると思う。もっと現役子育て世代の声も聞いてほしい。富士宮市に住みたいと思う人を増やすこと、ここで安心して子育てをしたいと思う方を大切に、富士宮市を大切に思う方が自ら博物館が必要だから建ててほしいという意見を増やすことが優先だと思う。未来へ投資しても、富士宮市に住む人が居なくなってしまうたら、それは投資ではなく、無駄遣いになってしまう。博物館に用意されている予算を、災害対策、少子化対策にあることはできないか。

市長

市長として、子育てのために一生懸命頑張っている。いくつもあり、きりがいいこともあるが、今日も三人目のこどもの保育料をどうするか。無料にしようという話もしてきた。

富士宮市は財政的には非常に裕福。例えば今69億のふるさと納税があり、そのうちの半分以上が返礼品で返すので、残りの35億がその富士宮市で使える。それがもう3年くらい続いている。来年度もさらに十パーセント以上プラスされるような、非常に色々な意味で潤沢な財政運営がある。今やるべきで、財政的に厳しい時にやろうとしてもなかなかできないことをやる。

今何とかして進めたい一つが、例えばこのエアコン。学校の授業で夏は暑くてしょうがない、それを富士宮市は全教室、数教室も、特別教室も、理科室も、全部エアコン入れた。これから、今年来年二か年かけて、体育館もエアコン入れるようにする。

医療費も無償化しており、富士宮市としては子育て中の親に対して、何とかして少子化対策はよその市に負けずに頑張ろうと、先駆けをやろうと頑張っている最中。いろいろな事についてぜひ皆さんにご理解いただきたいのは、新しいものを作るのではなく、今でもいいものになればそれでいいのではないかと、節約して、一生懸命市政運営をやっている。郷土史博物館を作る金を他に回せばよいと思う人もいるかもしれないが、大丈夫。郷土史博物館作っても、きちんと他のことはやれるようになっている。トイレなども非常に綺麗になって、どこの公共施設に行っても、学校も計画的にやっているが、色々他の市に負けぬような政策を一生懸命立ててやっていることをぜひご理解いただきたい。

Q	私は駅前交流センターの近くに住んでいるが、毎日交流センターでは大勢の人たちが学んでいる。いろいろな教室、講座、セミナー、学生も。本当に駐車場がいっぱいの時もある。毎月16日には商店街に色々なお店が出て、富士市や山梨のほうからも大勢の方が来て、非常に賑わっている十六市がある。その日でも、駐車場はいっぱいである。その人たちがどこに車を置いたらよいか。候補地の考え方として、駐車場、大型バス10台とか、40台と書いてあるが、とてもそんなスペースはない。交流センターを作った意義を、もっと原点に戻ってほしい。
市長	私が市長になったばかりのころ、駅前交流センターきららの駐車場は3台しかなかった。それで地主に交渉して譲ってもらった。普段は三分の一くらいしか使っていない。十六市などあった場合に、それなりの駐車場を主催者として探していただかないといけない。ただ、きららの駐車場を全部使うわけではない。これからも大型バス、トラックが十台なんていうことは無理。そこは、神田川観光駐車場のほうに置くなど、これからいろいろな考え方で、プロが設計してくれている中で考えてくれるので、そこは安心してくれればと思う。
文化課長	資料では建築面積が今2,600平米で計算されているが、博物館自体をコンパクトにするということで、これもコンパクトになればと思っている。駐車場については、例えば神田川駐車場や周辺の駐車場のほうを、今後見当していきたい。 きららの駐車場を全部使って博物館にしまうのではなく、例えば1,000とか1500くらいで建てるくらいのコンパクトさになれば、単純計算で駐車場は半分は残る。
Q	バスは入ったらUターンする。その分の広さも必要になってくる。 この辺は地下を掘ると地下水が出る。博物館を作ることで、くい打ちなどをした場合は地下水が出てくることもある。そういうことも考えているか。
文化課長	地下については、今調査していないが、水が出るという話は聞いている。周りも建物が建っているので、方法はあると考えている。 バスについては、きららで博物館を作った場合は、手前で降りて、ほかのところで待機という形も考えられる。
Q	博物館を建設する意義は分かった。ふるさと納税で財政的に豊かで、毎年何十億入ってくるから今が博物館を作るチャンスだとわかった。 それであれば、今それよりも全力で少子高齢化対策をするべきで、そのために予算を使うべきではないか。この辺だと長泉町が結構人口を維持しているが、富士宮も最近人口の減少が激しく、少子高齢化対策に予算を配分したほうが、博物館よりよいのでは。 8年以内に富士宮の公立高校4校が統合されて2校になるようなので、その廃校になる2校をうまく使えば予算も削減できる。また、商店街をうまく活用することもできる。あまりにもお金の使い方がい加減すぎて、もっと削減したり、もっと少子高齢化対策に全力で使うという考え方があるのではないか。
市長	少子高齢化対策は少子高齢化対策として、しっかりと政策を立てて行っている。これから敬老会の在り方も変えていかないとはいけないと思っており、その分高齢者対策に必要な政策に対する予算付けもしっかりしていきたい。また少子化についても、大変な時代になっているが、それについても予算をつけていきたい。郷土史博物館を作ったからって、そちらがおろそかになることでは決してないので、安心していただければ。

Q	高校の統廃合で、校舎を活かすことは考えていないか？
市長	高校は県のもので、市が勝手にできない。富士宮の高校4校が2校になってしまうという話はあるが、現実的にそれはいつのことかまだはっきりしていない。考え方としては分かるが、市の土地でもなく、県がどう考えているかも分からないので、それについては答えられない。
Q	私は富士宮が大好きで、富士宮の大切な財産が危機的状況にあるということもすごく分かった。仕事で、毎日ママたちの声を聞いている中で、博物館のことについて、賛成している人がひとりもない。ママたちが反対している理由をぜひ聞いてほしい。 やっぱりママたちはなかなか時間を割くことができないので、市長にママたちと一緒に話す機会をぜひ作って欲しい。それで、博物館を未来につないでいきたいと言っていたが、子育てで奮闘しているママ・パパは今がしんどい。今手が欲しい、今助けてほしい。エアコンやトイレもありがたいが、お金を物ではなくて、人に使ってほしい。
市長	そのように一生懸命心がける。スケジュールの都合をつけて私も説明したいし、皆さんの意見も聞いてみたい。
Q	この説明会を偶然知った。ほとんどの人が知らない。それがかなり問題。市の放送で市民全体が知らなければと思う。回覧板でもなんでもいいから知らせていただきたい。
文化課長	今回、広報ふじのみやと新聞と、SNS、テレビのほうでもお知らせした。それも全く見ない、見る機会が無い方もいると思う。今回は中心市街地、北部、芝川地区ということで夜と昼間と、2回ずつ計6回開催するが、またほかの地区も加えて、続いてやっていきたい。